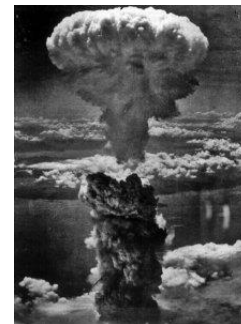


戦争の授業……その1……日本・原爆

世界で初めて、戦争に核兵器が使われた。

1 原爆の話を、日本人である皆さんは、必ずどこかで聞いたことがあると思います。また、知っていることもたくさんあるでしょう。



でも、世界の人々が、みなそうだとは限りません。原爆は、戦争を終わらせるために役に立ったと考えている人々が、世界にはいますし、また、核兵器を作ろうとする国も持ちたいという国も、今でもあります。

それでも、広島・長崎のあと、アメリカは他の戦争の時に、原爆を何度か使おうとしましたが、結局使いませんでした。

また、アメリカとソ連が対立している時に、二つの大国は核兵器を何万発と作り、戦争に使おうとしましたが、世界中で反対運動が起き、使いませんでした。

これは、広島・長崎の人々の大変悲惨で苦しい体験の話が、少しずつ、世界中に広まったためです。

私の知人で、こんな体験をした人がいます。イタリアを旅行していた時、列車に不良少年たちが乗ってきました。タバコを吸って、ワルを気取っていた中学生の少年たちが、その知人が日本人だと知ると、突然どこかに消えたかと思うと、もう一度現れた時には、タバコも捨て、礼儀正しい態度で聞いたそうです。「広島のかたがたは、いかがしていらっしゃいますか？」そう聞かれた知人は驚いて、感動しました。広島や長崎の人々が、原爆の犠牲となり、今も苦しんでいるということを、イタリアの少年たちも学校で勉強して、胸を痛めていたのです。



広島と長崎以来、戦争で核兵器は使われていません。原爆ドームは、人類が忘れ

てはならない悲惨でつらい経験だという意味から「負の世界遺産」になりました。

つらい記憶、恐怖、その後の苦しみ・・・その中からも、人々に伝えたいと思って話し続けた広島・長崎の人々がいて、核兵器の恐ろしさが伝わっていきました。

今回の原爆の勉強も、私の次にあなたが、そしてその次に、次の世代の子どもたちが、話を受け継いで伝えていく、そういう仕事の一部でもあるのです。

2 原爆はどういう武器なのか、それを確認しておきましょう。

	あだ名	形	落とされた日時
広島	リトルボーイ おちび		1945年(昭和20年) 8月6日8時15分
長崎	ファットマン おデブ		1945年(昭和20年) 8月9日11時2分

原爆は正式な名前を原子爆弾と言い、アメリカで作られました。日本とアメリカの戦争＝太平洋戦争の最後の時期に、なかなか降伏しない日本に対して使われた兵器が原爆でした。太平洋の島、テニアン島を飛び立ったアメリカ軍機が広島と長崎に、二つの原爆を落としたのです。

原爆は、よく「ピカドン」と人々に呼ばれましたが、その言葉は、爆発のようすをよく表しています。爆発直後火の玉ができます。その内部は40万度まで上がる太陽のような状態となり、その爆弾から出る熱線が「ピカ」で、強烈な2000度以上の熱線が瞬間的に降り注ぐ状態(0.2秒後から3秒間)です。原爆の真下でこの熱線を直接浴びた人々は、瞬間的に燃えつきて、骨さえ残らず消滅してしまっただけです。

そして、この3秒後にやって来るのは「ドン」で、これは衝撃波と言って、何もかもなぎ倒す風速200mの暴風、ガラスもコンクリも巻き込む突風となって人々をなぎ倒していったと言われています。

そして、30分後には、燃えつきた物の灰が作った巨大なきのこ雲から、放射能を含んだ「黒い雨」が降りだす・・・というのが、原爆の爆発とその後の状態です。

広島・長崎の人々は、「閃光」で体中の皮がむけてしまうほどのやけどをし、放射能を浴びてしまいました。広島と長崎で30万人以上の人々が亡くなりました。

③ 実際に原爆のあとのようすを知りたいと思った時に、写真がありますが、当日撮った写真は、ごく少数しか残っていません。

それは、当時写真を撮ることがスパイ活動にあたるとして、むやみに撮ってはいけなかったためと、カメラ自体も多くが燃えてしまったためだと言われています。その中で残った広島原爆投下当日の写真5枚は新聞社のカメラマン松重美人さんが撮ったものでした。



5枚しかない写真の理由がもう一つあります。松重さんはもっと悲惨な人々の姿を目にして、あまりの悲しみに涙が出て、前が見えなくなり、シャッターが切れなかったと言っています。

髪がさかだっている女子学生たちの姿は、衝撃波の爆風がほんとうにあったことをものがたっています。

原爆が落ちた日、どれだけの人々が、どんな恐ろしい目に会っていたのでしょうか。原爆にあった人々が、30年たっても、いつときも忘れることができず、いつも思い浮かんでしまう原爆のようすを絵に描きました。

その絵を見ると、よくこんなに昔のことを覚えているのかと思うくらいくわしく描かれていて説明も昨日のここのように書かれています。

それは、きっと、頭に焼きついた当時のようすは、忘れたくても決して忘れられないほどつらい、被爆した方の苦しみを表わしているのでしょう。

その中から、いくつかの絵と、説明を読んでみましょう。



説明の文章にはこう書いてあります。

「炎に包まれた二階の窓より助けを求める少女。いまだに忘れることはできない」

この絵を描いた佐々木さんは今でも、この女の子を助けられなかったことを後悔しています。火の中に入ることはでき

なかったし、助けられなかったのもしかたがないことなのに、今でも、女の子のことを考えると、胸が苦しくなるのでしょうか。同じような絵をたくさんの人々が描いています。

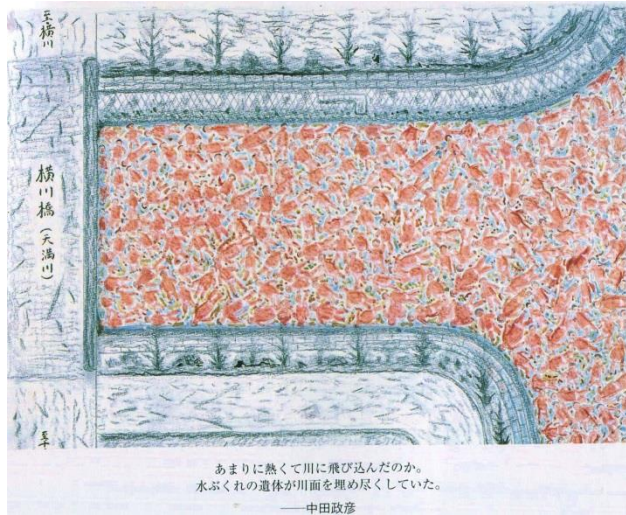


左の絵の中山さんはこう説明しています。

「火の手に追われ、逃げてくる人々、みな真っ黒に水ぶくれし、皮膚がべろべろと垂れ下がっている」

原爆で全身やけどを負った人々は、皮膚がむけてしまう状態でした。このようすが怖ろしいのと、かわいそうなので、被爆された方は、みなそういう状態のようすを話しています。多くの人々が水を求めています。

したが、水を飲ませると死んでしまうといううわさで、水をあげなかった人々は飲ませてあげればよかったと、いまだに思い浮かべるそうです。



あまりに熱くて川に飛び込んだのか、水膨れの遺体が川面を埋めつくしていた。水ぶくれの遺体が川面を埋め尽くしていた。
——中田政彦

「あまりに熱くて川に飛び込んだのか、水膨れの遺体が川面を埋めつくしていた」
橋の上から見ると、水面が見えないくらい人々の体がたくさん浮かんでいたのでしょう。

建物がなぎ倒されたあとに、たくさんの人々の遺体が集められました。

その遺体を焼く火が、何日も燃え続けたと言われます。

「姉を見つけた時、上半身だけがかろうじて残っている状態だった。焼け残りの木材を集め、父と叔母と火葬した」

こうした経験は目に焼き付いてしまったでしょう。20 時間以上も燃やし続けたと書かれた絵もありました。

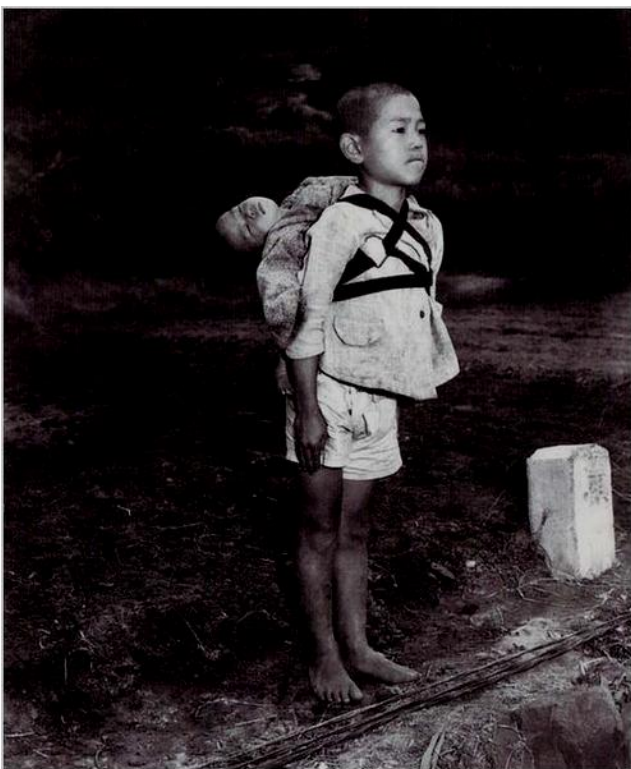


姉を見つけたとき、上半身だけがかろうじて残っている状態だった。焼け残りの木材を集め、父と叔母と火葬した。
——坂井アサノ

左の写真は有名な写真ですが、今までの絵を見てきた後で、少年の気持ちを想像すると、胸が痛くなってしまいます。

長崎：9月 アメリカ軍カメラマン、オダネル『一人の少年が現れた。背中に幼い弟を背負っているようだった。火葬場にいた2人の男が弟を背中から外し、そっと火の中に置いた。彼は黙って立ち続けていた。まるで敬礼をしているかのよう。炎が彼のほおを赤く染めていた。彼は泣かず、ただ唇をかみしめていた。あまりにきつく、かみ締めているため、唇の血は流れることもなく、ただ少年の下唇に赤くにじんんでいた。……そして何も言わず、立ち去っていった』

アメリカ人のオダネルさんもこの光景が忘れられず、戦争が終わって何十年もたってか



ら、この少年をさがそうとしましたが、見つかりませんでした。

もしかしたら、この少年は原爆の後遺症やその後の飢えで亡くなったのかもしれない。

4 被爆者のかたのお話を聞いてみましょう。

語り部として、長年活動された沼田鈴子さんです。

22歳の時に広島で被爆し、その時、がれきの下に、足があったためにその後切断をせざるを得ませんでした。その時のようすをお話していただきます。



5 沼田鈴子さんは、最初から語り部として原爆の話をされていたわけではありません。被ばくしたあと、婚約者の戦死、足の切断・・・そうした運命に一時は、生きる希望も失ってしまいます。

その沼田鈴子さんが、どうして語り部として話をするようになったのか、それを取材した番組がありますので、見てみましょう。

2011年に亡くなった時は、沼田さんは、2011年の地震と原発事故(放射能漏れ事故ですから)に大きなショックを受け、このことをきっかけにして、倒れられたようです。ずっと原爆に反対し、放射能を利用する原子力発電の危険性も訴えていました。

6 一方で、原爆を落とした方の人々は、その後どうなったのでしょうか。

テニヤン島から、飛び立った B29 に乗っていた搭乗員は、広島時には、12 人、長崎時には 13 人が乗り込んでいました。では、その乗組員たちに、15 年ほど前にインタビューをした新聞記事がありますので、紹介しましょう。



彼らは、広島と長崎に原爆を落とした後、アメリカでは英雄と迎えられました。その後も多くの乗組員が「戦争を終結させた役割で、誇りに思っている」という意味の発言をしています。しかし、この新聞記事には、悩んでいるとは言っていない立場の彼らの気持ちも表れているように思います。

1999 年 8 月 1 日 朝日新聞の記事から

アシュワース氏

「原爆は、市民を巻き込んだ。女性や子どもも殺した。こころよく思うわけがない。でも、職務を忠実に果たしたのだ。後悔しているかって？その質問に答えるべき立場なのは大統領だよ」「私が一つの都市に死をもたらし、破壊したことにいくらかの責任があることについてだが・・・、私は苦悩で寝つけないとは言えない立場をとり続けなければならない。悩むわけにはいかない。」

ロバート氏

「自分は戦争を終結させた英雄か、史上最悪の破壊に手を染めた嫌われ者か」と悩んでいた。

カーミット氏

1985年に被爆者に謝罪したいと長崎市へ手紙を書いた。「自分が原爆を使った最後の人間になることを望む」と訴えていた。

フレッド氏

「今も苦しんでいる人たちがいる場所に、行きたいと思うわけがない。行ったとしても、彼らにかけるべき言葉などないからだ」

日本の新聞記者は、広島長崎の被害について、今ならどう思うかを聞きだしたかった…つまり、あれはひどいとか間違いだったとか・・・という意見を聞き取ったのでしょ

う。しかし、そうはっきり述べる人はいなかったようですし、その後、すべての乗組員は、亡くなっています。

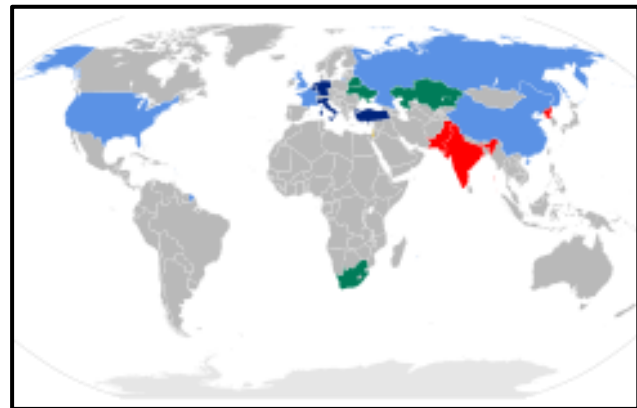
しかし、この言葉の中から、みなさんも彼ら、乗組員の一人一人違う傷を感じたのではないでしょ

うか。戦争で人を殺していても、その後、何も無かったように、過ごす人々は確かにいます。しかし、心の傷を抱える人も、一方で、必ずいます。

原爆についても、そうした傷があるように思えないでしょ

7 現在、核兵器の現状はどうなっているでしょうか。

次の地図で確認しましょう。



核保有国の地図

■ NPT によって保有が認められた五大国

(米、英、露、仏、中)

■ NPT 非批准の核保有国

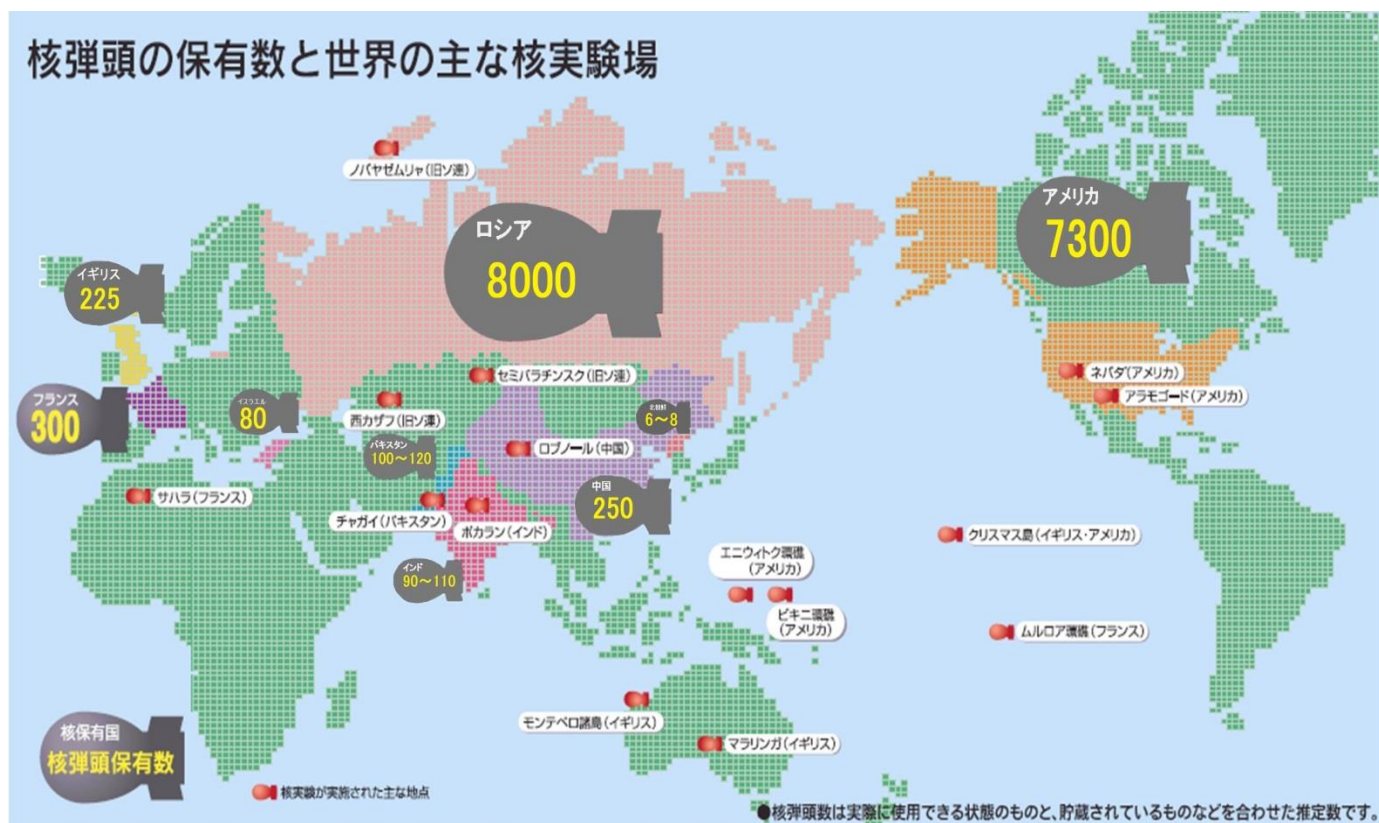
(インド、パキスタン、北朝鮮)

■ 核保有国とみなされている国(イスラエル) ■ 核開発の疑いが濃厚な国(イラン、シリア)

■ NATO の核共有協定国

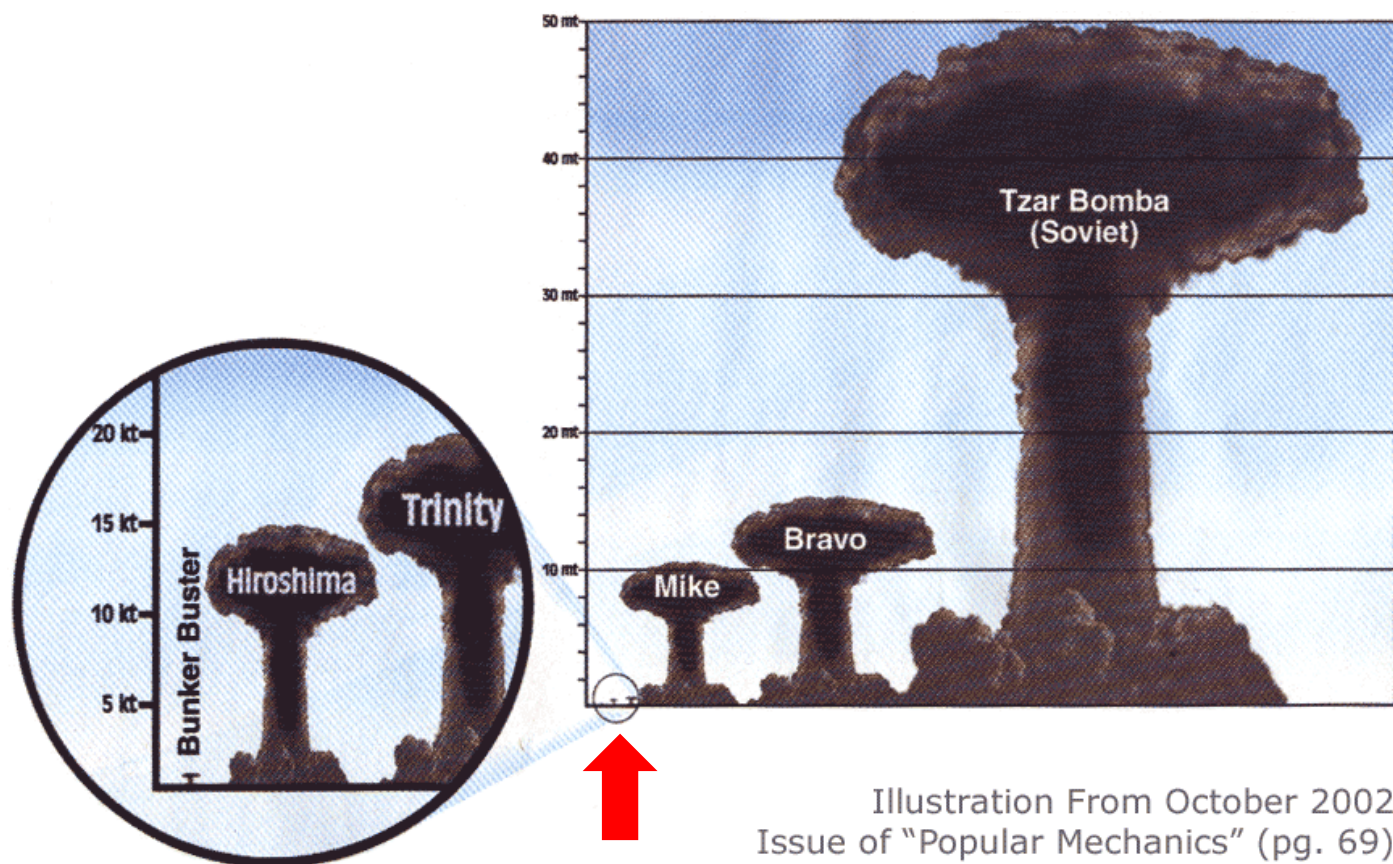
■ 過去の保有国

核兵器を持っていると考えられる国は _____ カ国。



今の核弾頭一個で広島原爆の 100 倍～1 万倍の威力があるそうです。

この図(ロシアの核実験の威力)を見ても、どれだけ、怖ろしい兵器か、考えさせられてしまいます。



戦争の授業・・・構成1 = 日本・原爆

ねらい

- ① 原爆はどのような兵器なのか
- ② 原爆が落とされたあとの町の様子・人々のようすはどのような状態だったか
- ③ 人々はどのような被害を受けたのか、苦しみ、つらさも含めて
- ④ 原爆のあとの戦争の傷跡が長く続いたし、今も続いている。
(後遺症、恐怖、差別、子孫の問題、加害者側も)

授業の構成

- ① 核兵器として最初に使われたのが広島と長崎。⇒ その意味
- ② 実際に投下されたあとのようすを写真と絵から知る
⇒ 熱、暴風、この世の地獄と思うような光景
- ③ 沼田鈴子さんのお話を聞き取り、ようすを思い描く ⇒ 実際の体験を聞く
- ④ 沼田鈴子さんの戦後を知る
⇒ 長く残る戦後の人生の傷、語り部として生きる決意
- ⑤ 原爆を落とした方のパイロットはどう今考えるだろうか ⇒ 加害者側の傷
- ⑥ 今の核兵器の現状 ⇒ 現在の問題

戦争(第二次大戦)についての授業

世界中が戦争をしていた時代

1 戦争のことを授業する前に、先生たちが考えること

- ・伝えたいと思う、でもどうしていいかわからない。
- ・子どもたちがどう受け止めるか不安。
- ・保護者の方たちの反響は、どういうものが出てくるのだろう。
- ・いろいろ報道されてもいるから、真実がよくわからない。
- ・政治的な形に巻き込まれることはしたくない。
.....等々不安に思うことはあるでしょう。

2 私の経験

- ・案ずるより産むがやすし.....子どもたちは知りたがっている!!!
- ・保護者の方たちも、「戦争を学ぶ意義はある」と考えている。
- ・授業をすればするほど、子どもたちが自信を与えてくれる。
- ・ただし、次の立場を、明確に取るようになってきた自分がいる。

①世界の常識は子どもたちの未来に必要なだ、これは世界の常識かどうか？と

いう物差しで測って、内容は決める。(例：パレスチナ問題など)

②「当時の日本人」が「悪人だった」と言うことではない。その時代その国に生まれたのは単なる偶然だから、もし、国が違ってこの時代に生まれていたら、いくら嫌でも、被害者にも、加害者にもなる可能性があった。そうなる危険性は私にも、子どもたちにもあった。だから、「今の時代に生まれてよかった！！」は実感で、この感想は時代に共感すればするほど出てくる。

③だからと言って、当時の日本の政治に責任が無いわけではない、あとの時代に生まれた人間には、知る責任があると思う。

④加害者側からの真実だけでなく、被害者側からの真実も両方あるという

ことを理解しなければ.....。真実はいくつもあるが、それを理解することが大切。

みなさんも、子どもたちと授業をしていく中で、教えられ、自信を得るでしょう。

3 戦争の授業の重要性

* 世界大戦の時代の記憶は、人類の財産(莫大な数の人々が死亡・悲惨な体験)
.....それを継承する。

* 最も重要なのは、当時の人々のことを共感的に理解すること。

(状況があまりに違うだけに、今の時代からは共感できない方が普通。だから、
時代の状況を理解し人々に共感できるような授業を組み立てることが大事)

* 学習する中で、知識として大人になっても必要なことは?(独断で)

・戦争では、常に弱者が犠牲になる。(子ども、女性.....)

・「戦争を始めるきっかけは相手にあり、こちらには正義がある」と言うが、
.....しかし真実の理由は、常に利害関係にある。

・戦場では人を殺さないと言われ、殺される。その傷は深くていつまでも癒えない。

・必ず嘘の情報が流され、人々は信じ込まされる。

4 授業の構成...全部無理でも、次の单元だけでもどうでしょう?

小学校でも第二次世界大戦について教える時、内容として、次のことは必要だと
考えます。局面については説明が必要だと思いますが、共感できる例えば証言、映
画やドラマについては例えば日本で一つ、植民地で一つずつで用意は十分かもしれ
ないと思います。

①日本では.....**沖縄戦**=アメリカ軍が上陸して県民全てが生死をさまよった。

原爆=世界で初めて核爆弾が落とされた都市

東京大空襲=空から爆弾が落とされ、今の町が焼野原になった。

②アジアでは.....**中国・朝鮮・東南アジア**から象徴的な教材を最低一つ。

* **朝鮮**は植民地にして35年間支配した上、その後の冷戦で二つの国に分断され
てしまったから最も重要。

* 中国も満州があり、戦争の被害が大きかったので、重要。

③世界の戦争では.....**アウシュビッツ**